

令和2年10月15日

出張報告書

津山市議会議員 西野修平

出張日	令和2年8月 / 日
種別	<input checked="" type="checkbox"/> 調査研究・視察 <input type="checkbox"/> 要請・陳情 <input type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> 各種会議
出張先	高梁市吹屋
調査研究項目 要請・陳情項目 研修会・会議名	岡山県指定重要文化財旧吹屋小学校校舎の保存修理 現場公開
応対者/講師名	(株)藤木工務店
目的	遺産興業の誘定で企業が企業現場で町を造り学校教育に力を入れた当時、すばしい建築と教育をした。
概要	日本遺産に指定された備前吹屋は弁柄と銅の町で「節のいっしょ」の発祥の地である。ここを取材し、近年は大塚山合社が土地し、多くの人が住み町が発展し立派な小学校が建てられた。2階に大講堂がありすばらしく立派なものである。瓦は石洲で寄せ標造りた。地元の杉と松で出来た大変な代物です。岡山県の日本建築の権藤藤木工務店から「エッセイ」なので「良く説明をしてもらった。
得られた成果 市政への反映点 今後の課題点 など	城東の地区にこのえ城西地区も官伝建に指定された津山地区 岡山県の遺産の木材などの保存家なども今後出来ると思う。県産材の消費と技術の継承をすべきである。

※欄が不足する場合は、別紙で添付してください。

岡山県指定重要文化財

旧吹屋小学校

保存修理工事

現場公開

〈第6回〉 『日本遺産』 認定記念

令和2年8月1日(土)・2日(日) 10時～15時

※随時見学

◆本館の屋根を間近に見学できる最後の機会となります。

現場へお越しくください。

動きやすい服装・履物でお越しくください。

駐車場は吹屋の町並みの「下町駐車場」「千枚駐車場」をご利用ください。

見学場所は工事現場であり、安全のため、様々な制限があります。

皆様のご理解とご協力をお願いします。

主催：高梁市教育委員会 TEL：0866-21-1516

協力：一般財団法人 建築研究協会

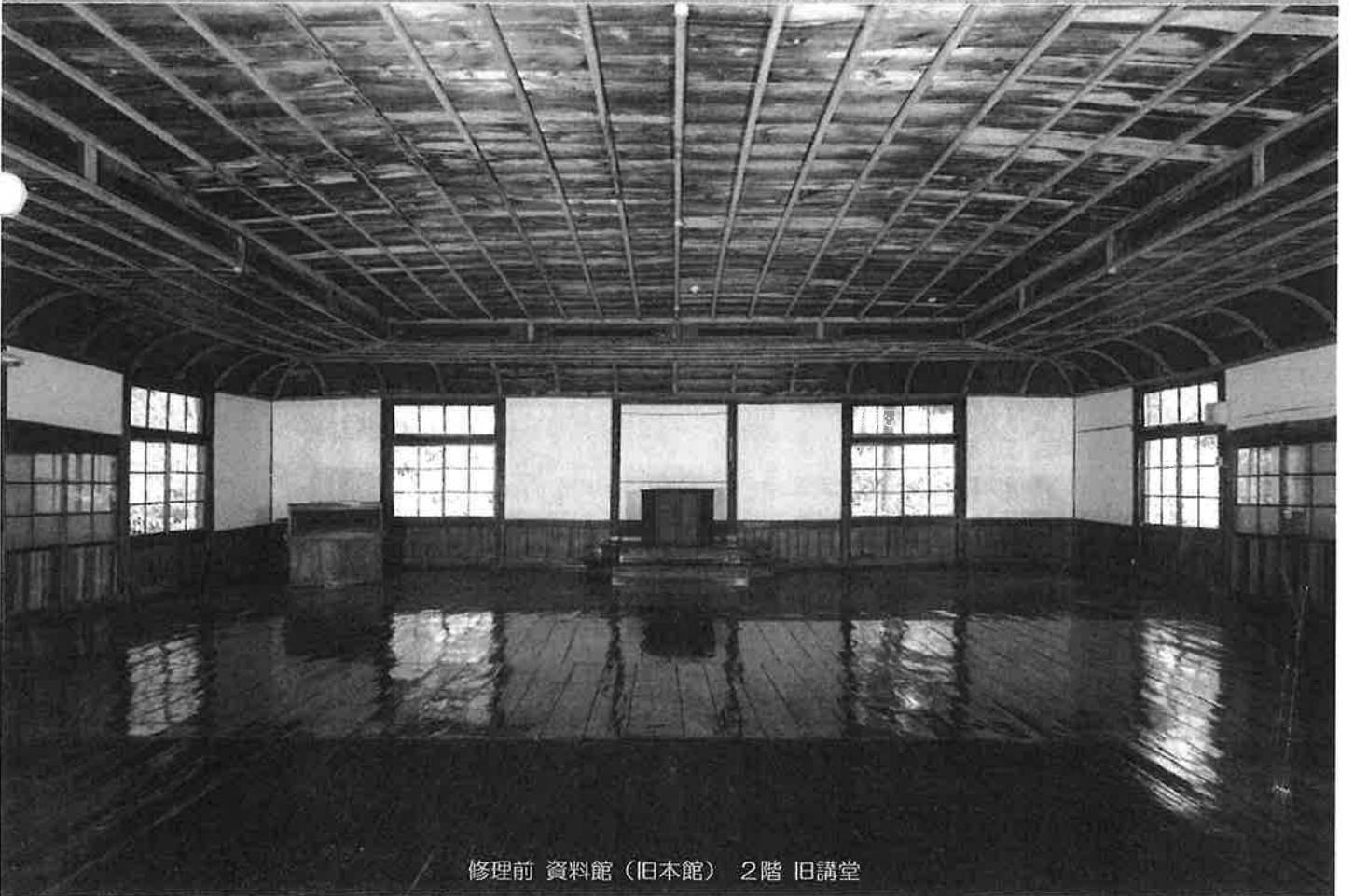
藤木工務店・中村建設特定建設工事共同企業体

岡山県指定重要文化財 旧吹屋小学校校舎 第6回 保存修理現場公開

令和2年8月1日・2日



修理前 資料館（旧本館）



修理前 資料館（旧本館） 2階 旧講堂

旧吹屋小学校の概要

明治 6年(1873)	「第三十九番小学」として開校
明治 34年(1901)	吹屋町の成立にともない 「吹屋町立吹屋尋常高等小学校」
昭和 16年(1941)	「岡山県川上郡吹屋国民学校」
昭和 22年(1947)	「岡山県川上郡吹屋小学校」
昭和 30年(1959)	町村合併により「川上郡成羽町立吹屋小学校」
平成 15年(2003)	3月11日に本館、東校舎、西校舎の3棟が 岡山県指定重要文化財に指定
平成 16年(2004)	3月12日に東廊下と西廊下が追加指定 市町村合併により「高梁市立吹屋小学校」
平成 24年(2012)	3月末に閉校
平成 27年(2015)	10月より保存修理工事を開始

建物の概要

建築年	生涯学習施設(旧東校舎)・東廊下	明治 33年(1900)
	集会場(旧西校舎)・西廊下	明治 42年(1909)
	資料館(旧本館)	
構造	木造	
階数	資料館	2階建
	生涯学習施設・東廊下	
	集会場・西廊下	平屋建
床面積	資料館	766.75㎡
	生涯学習施設	217.21㎡
	東廊下	34.62㎡
	集会場	207.43㎡
	西廊下	39.75㎡
	合計	1,265.76㎡

保存修理工事の概要

修理前の資料館は、南側の一部が大きく沈下(旧講堂 床面 16.2cm沈下)し、柱の傾きや床面の不陸がみられ、一部雨漏りしている箇所がありました。生涯学習施設や東廊下は、柱の傾きや床面の不陸が確認されました。集会場や西廊下は、柱の傾きや一部柱の脚元に腐敗がみられ軒先が垂れ下がった状況でした。

今回の工事では、これらの破損状況を踏まえ、全ての建物の屋根瓦から石積み基礎までを順次丁寧に解体し、新たに鉄筋コンクリートの基礎を設け、木部の腐朽部分の修理や取替えを行い、石積み基礎から順次組立を行う「全解体保存修理工事」を実施しています。

また、今回の工事を実施する前に耐震診断を行った結果、資料館、生涯学習施設、集会場の3棟においては震度6強の地震では倒壊する恐れがあることが判明しました。

このため、今回の工事にあわせて耐震補強工事を実施しています。全ての建物の屋根葺きに使用されていた土を取り除き、屋根荷重を軽減することや資料館の土塗り壁の一部を鉄骨補強と乾式パネル(荒壁パネル)、生涯学習施設と集会場も壁の一部を乾式パネルに変更して壁の耐力を増し、地震時に倒壊しない補強方法が採用されています。これらの補強材は、文化財としての価値を損なわないように全て壁の中に設置するため、工事完了後には見えなくなります。

屋根瓦の概要

吹屋小学校に使用されている屋根瓦は、「石州瓦」と呼ばれる、瓦の表面に釉薬をかけて作られた棧瓦が使用されています。瓦の表面は、赤茶色や朱色がかたものや、赤黒色、茶色などの様々な変化があり、吹屋の伝建地区の建物にも多く使われています。

今回の修理工事では、瓦枚数約2万8千枚(特殊な瓦は除く)の屋根瓦を丁寧に取外し、割れや欠けがないか、曲りや大きさなどを検査して再用、不再用を判別しています。検査の結果、欠けや曲がりがある瓦が多かったため、今回の工事では約1/3の瓦を再用しています。

また、軒先の瓦(軒唐草瓦)には模様があり、58種類のものが使われており、過去の修理においてさまざまな瓦が用いられていたことが判明しました。今回の工事では、資料館に多く用いられた瓦(写真1)と生涯学習施設及び集会場に用いられた瓦(写真2)を参考に、不足した軒先の瓦をそれぞれ新しく製作して葺いています。



資料館(旧本館)屋根葺き完了



写真1 資料館の軒先に多く使われていた瓦



写真2 生涯学習施設及び集会場に多く使われていた瓦



JAPAN HERITAGE

日本遺産

「ジャパンレッド」発祥の地

べんがら あかがね

－ 弁柄と銅の町・備中吹屋 －

【ストーリーの概要】

標高約 500m の高原上に忽然と出現する「赤い町並み」。かつて国内屈指の弁柄べんがらと銅あかがね生産で繁栄した鉾山町・吹屋である。吹屋で生産された赤色顔料の弁柄は全国に流通し、社寺などの建築や九谷焼くたにやき・伊万里焼いまりやきや輪島塗わじまぬり等、日本を代表する工芸品を鮮やかに彩り、日本のイメージカラーである「ジャパンレッド」を創出した。富を得た商人たちは赤い瓦と弁柄で彩色された格子で家々を飾り、今も残る町並みは、独特の景観を醸し出し、訪れる多くの人々を魅了している。また周辺には、弁柄工場跡や銅山跡等も残り、「ジャパンレッド」を創出した往時の繁栄をしのばせている。



【日本遺産とは】

地域の歴史的魅力や特色を通じて、我が国の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定するもので、平成 27 年 (2015) に創設。指定されている文化財をはじめ、地域を語る上で欠かせない様々な遺産を「面」として活用し、国内外へ情報発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的としています。令和 2 年までに全国で 104 件が認定されています。

高梁市

日本遺産・歴史まちづくり推進室

〒 716-8501 岡山県高梁市松原通 2043 番地 TEL 0866-21-0257

URL:<http://www.city.takahashi.okayama.jp/soshiki/5/>

E-mail:rekishimachi@city.takahashi.lg.jp

日本遺産に認定された高梁市のストーリー

赤い町並みの景観と魅力

峡谷沿いの道から山へ分け入り、人家も稀な急峻な山道を進むと、突如として眼前に現れる「赤い町並み」に驚く。赤褐色の瓦で葺かれた屋根、弁柄塗りの格子で鮮やかに統一された立派な町家が道の両脇に並ぶ。岡山県中西部の吉備高原上に位置する吹屋の町並みである。当地は、かつて弁柄と銅の生産地として繁栄した鉦山町で、備後東城（現在の広島県庄原市）と備中成羽（現在の岡山県高梁市成羽町）を結ぶ旧吹屋往来の中継地点にも位置し、各種物資の集散地として大いに賑わい、往来沿いには弁柄問屋や宿屋、銅山労働者を対象とした各種の小売商を営んだ家々が軒を連ねた。その財力を背景として、各商家等は石見（現在の島根県西部）から宮大工や瓦職人を招請し、競うように優れた意匠の町家を建築した。そうした地域の人々の活発な営みの中で形成されたのが、他に例を見ない「赤い町並み」の景観である。



ジャパンレッドを創出した吹屋弁柄

海外の人々による日本のイメージカラーは、圧倒的に「赤」といわれ、その赤は古来より生命の源、神聖なるものを象徴する色彩とされた。赤色が映える九谷焼・伊万里焼の陶磁器や輪島塗・山中塗の漆器等、我が国が誇る多くの伝統工芸品に用いられたのは、備中吹屋産の赤色顔料「弁柄」であった。これら優れた工芸品は、遠く欧米の地でも高く評価され、日本的色調の赤である「ジャパンレッド」として認識された。

弁柄は、銅山から銅鉦石とともに産出された硫化鉄鉦石を原料とする。硫化鉄鉦石から取り出した緑礬（硫酸鉄の結晶）を釜で焼成し、水槽に入れて不純物を取り除き、細かく粉成、脱酸し、天日乾燥を経て赤い粉末状の弁柄となる。吹屋では、江戸時代中期から弁柄の製造に着手、陶磁器・漆器等の顔料や建築・船舶の防腐塗料として重用され、全国市場を独占した。明治10年（1877）に開催された「第1回内国勸業博覧会」では、「吹屋弁柄」は一等褒状を授与され、その良質さと名声は全国に広まった。特に、陶磁器の赤絵や漆器の朱漆には、「吹屋弁柄」は欠くことのできないものとされ、まさに吹屋は「ジャパンレッド」発祥の地といえる。

あかがね
国内屈指の銅の生産地

「吹屋よいとこ 金掘るところ 掘れば掘るほど 金がでる」、吹屋に伝わる俗謡にもあるように、国内有数の銅（銅は、その色合いから「あかがね」とも呼称された）の生産地でもあった。伝承によると、当地の吉岡銅山は、大同2年（807）の開坑、戦国時代には有力大名による争奪戦が展開されたが、江戸時代中期には、大坂の泉屋（後の住友家）が経営に参画し、国内屈指の産銅量を誇った。その後、明治時代初期には岩崎弥太郎（三菱商会）が買収し、巨大な資本力と外国の先進技術の導入により、近代的経営を展開、後の鉦山経営の規範となったとされる。

昭和47年（1972）に閉山となったが、現在、鉦山跡地には坑道・選鉦場・製錬所・沈殿槽・トロッコ用トンネル等の遺構がみられ、往時をしのぶことができる。このように、吉岡銅山は、住友・三菱という我が国を代表する財閥が経営に関与した銅山であり、貴重な産業遺跡として評価（近代化産業遺産：平成19年経済産業省）されている。

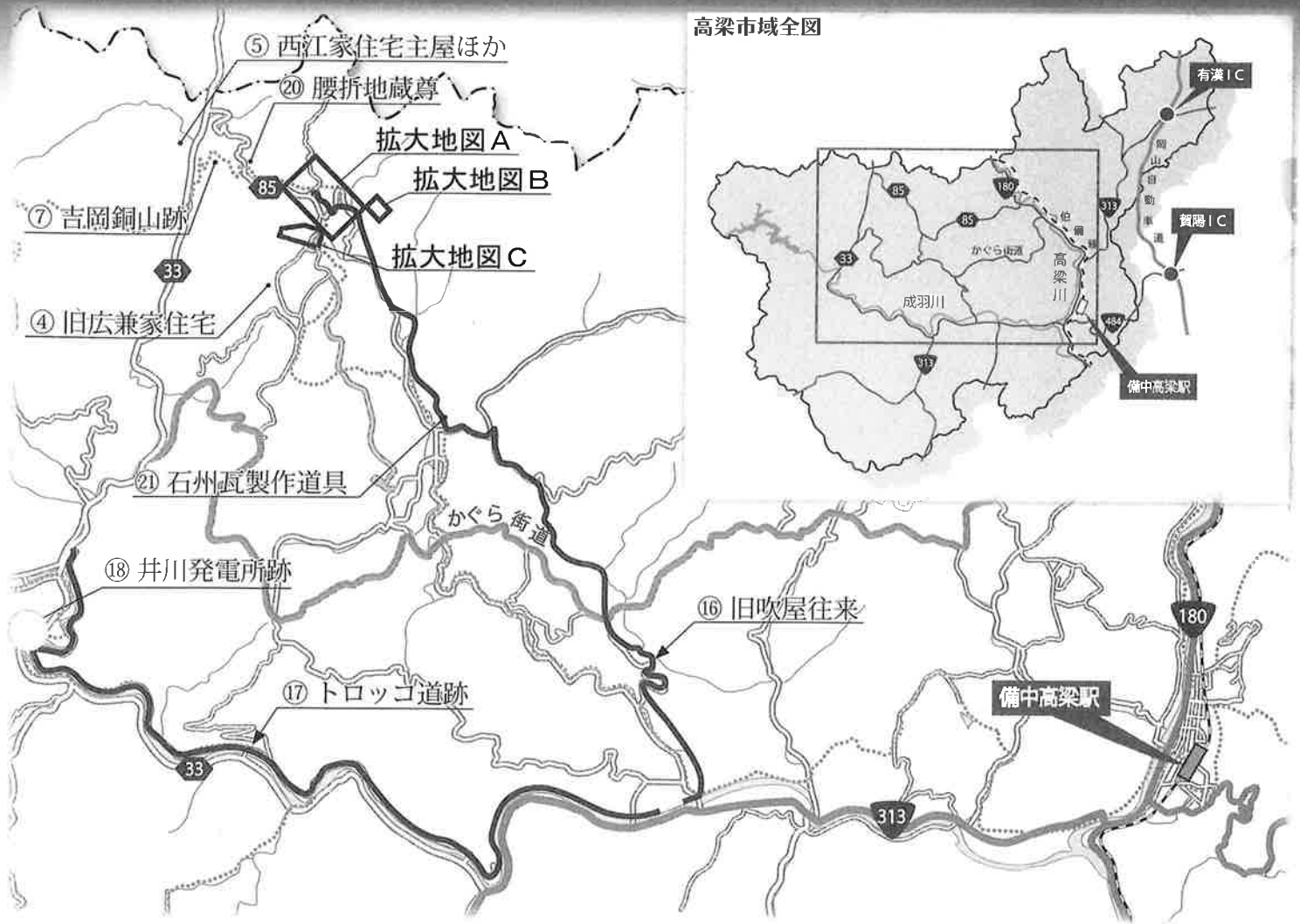


吹屋弁柄と銅山の隆盛を体感できる空間

吹屋の下谷から下町・中町・千枚地区に至る約1.5kmの「高梁市吹屋伝統的建造物群保存地区」（国選定）を散策すると、弁柄の製造に携わった「旧片山家住宅」（国重要文化財）等で構成される赤褐色の瓦と弁柄塗りの格子で鮮やかに彩られた異空間を体感できる。また、町並みの周辺には、弁柄の製造工程を概観できる「ベンガラ館」や弁柄関連で財をなし豪壮な屋敷構えを誇る「旧広兼家住宅」（市重要文化財）・「西江家住宅主屋等」（国登録）、さらに削岩機の跡も生々しい「笹畝坑道」、三菱の鉦山本部跡地に建築された

た明治のレトロ感溢れる「旧吹屋小学校校舎」（県重要文化財）があり、それらを周遊すると、「ジャパンレッド」を創出した往時にタイムスリップしたような錯覚をおぼえる。

近年、「赤い町並み」を舞台に、幻想的な夜の町並みを映し出す「吹屋ベンガラ灯り」、ベンガラ染めの衣装を纏った踊り連が優雅に舞う「吹屋小唄踊り」、地域の魅力をアートで表現する「吹屋ベンガラアート展」や、自転車で疾走する「ヒルクライム大会」等を実施、豊かな自然と歴史・文化が融合した「ジャパンレッド」発祥の地の魅力を広く発信する取り組みを展開し、多くの来訪者で賑わっている。



高梁市域全図

拡大地図A



吹屋地区 拡大絵図

- ①高梁市吹屋伝統的建造物群保存地区は地図の赤線で囲われた範囲。
- ①⑨備中神楽は備中地域一円で保存・伝承されている。

至 拡大地図C

《日本遺産》 「ジャパンレッド」発祥の地

ストーリーを構成する文化財



① 高梁市吹屋伝統的建造物群保存地区



② 旧片山家住宅



③ 吹屋郷土館



④ 旧広兼家住宅



⑤ 西江家住宅
主屋ほか



⑥ ベンガラ館



⑦ 吉岡銅山跡



⑧ 笹軟坑道



⑨ 山神社跡



⑩ 山神社



⑪ 黄金山城跡



⑫ 延命寺



⑬ 銅栄寺



⑭ 鉱夫長屋跡



⑮ 旧吹屋小学校校舎



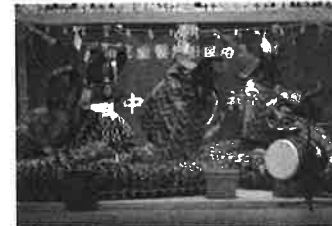
⑯ 旧吹屋往来



⑰ トロッコ道跡



⑱ 井川発電所跡



⑲ 備中神楽



⑳ 腰折地蔵尊



㉑ 石州瓦製作道具



㉒ 片山家文書



JAPAN HERITAGE
日本遺産

高梁市（岡山県）

令和2年(2020)

6月19日 認定

令和2年10月15日

出張報告書

津山市議会議員 西野 裕平



出張日	令和2年8月2日
種別	<input checked="" type="checkbox"/> 調査研究・視察 <input type="checkbox"/> 要請・陳情 <input type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> 各種会議
出張先	岡山県立美術館
調査研究項目 要請・陳情項目 研修会・会議名	高畑勲展 日本のアニメーションの遺したものの
応対者/講師名	
目的	日本のアニメーションの文化をよびかき高畑勲の文化の継承(アニメーション)について。
概要	日本のアニメーションの過程は根気と努力と対話とに発想である。根気よく対話をしていくことが大切と教える。
得られた成果 市政への反映点 今後の課題点 など	和が小生の時々の思い出し2つの話の多く出て来た。子供達の夢を育て大人にも影響を与える感動的なものである。一時有子にきかかしては、 子供 後世に残るにマシと教える事が大切だと思ふ

※欄が不足する場合は、別紙で添付してください。

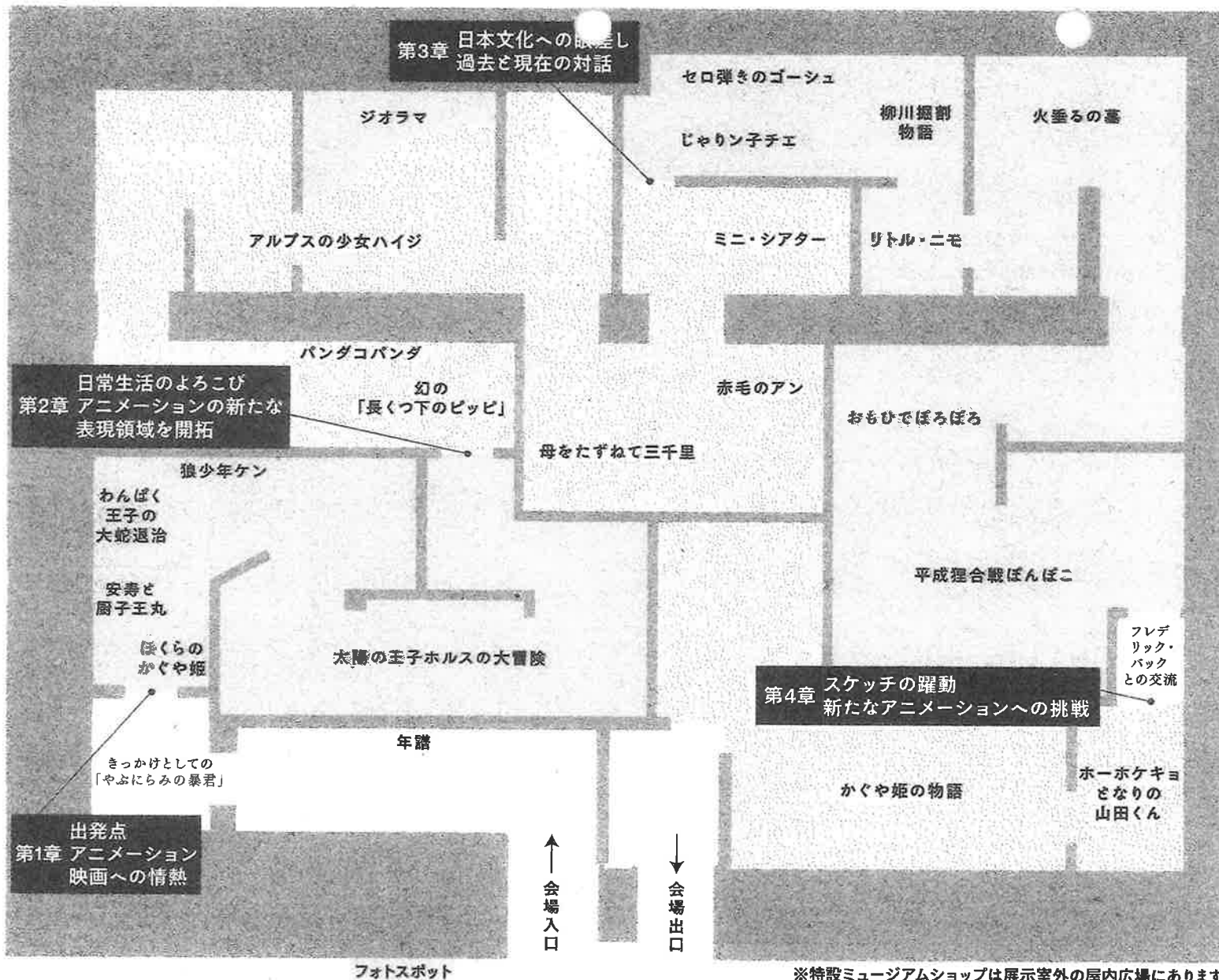
TAKAHATA ISAO
A LEGEND IN JAPANESE ANIMATION

日本のアニメーションに遺したものの

高畑勲展

会場案内図

 岡山県立美術館
OKAYAMA PREFECTURAL MUSEUM OF ART



※特設ミュージアムショップは展示室外の屋内広場にあります。

2020年

前期

8/1 → 9/8
(土) (火)

後期

9/21 → 9/27
(月祝) (日)

開館時間=9:00-17:00 (入館は閉館30分前まで/8月8日~8月15日、8月28日、9月25日は19:00まで開館) 休館日=なし

主催=岡山県立美術館 山陽新聞社 RSK山陽放送 企画協力=スタジオジブリ 制作協力=NHKプロモーション

協力=(公財)徳間記念アニメーション文化財団 特別協賛=三幸工務店 協賛=凸版印刷

お問い合わせ=086-225-4800 公式サイト=https://takahata-ten.jp

令和2年10月15日

出張報告書

津山市議会議員 西野 幸平



出張日	令和2年9月13日
種別	<input checked="" type="checkbox"/> 調査研究・視察 <input type="checkbox"/> 要請・陳情 <input type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> 各種会議
出張先	岡山ティム・イメージPM
調査研究項目 要請・陳情項目 研修会・会議名	第4回日本陶磁協会現代陶芸奨励賞中国・四国展 これは現代の真摯な土のつくりと挑戦を行つた作品を 茶握(奨励対象のもの)
応対者/講師名	
目的	これは現代の真摯な土のつくりと挑戦を行つた作品を 茶握(奨励対象のもの)
概要	金盃賞・茶陶・生活の器の部門に於いて賞を出す事に 意義があると思う。美術でありながら実際にお茶や 料理などに実際に花をさける等生活に生かせるものであり
得られた成果 市政への反映点 今後の課題点 など	人(お客)のおもてなしの美に身近なところのことで集まる 調度品をいかにとらえるか。津山市も作家・職人を育て る必要がある。

※欄が不足する場合は、別紙で添付してください。

平成 3 年 3 月 22 日

津山市議会議員 西野 隆平

出張報告書

下記のとおり出張しましたので、報告します。

記

1. 出張期間 平成 2 年 10 月 10 日 ~ 平成 2 年 10 月 10 日

2. 出張先 新見市立美術館

3. 出張者 西野 隆平

4. 出張内容 美術館開設記念として新見市出身の日本
画家の絵や日車を代表する岡山岡村氏達の展示会
である。津山にはこの様な催しがないのが残念です。

(裏面へ)

平成 3 年 3 月 22 日

津山市議会議員 西野 修平

出張報告書

下記のとおり出張しましたので、報告します。

記

1. 出張期間 平成 2 年 10 月 11 日 ~ 平成 2 年 10 月 11 日
2. 出張先 岡山県立美術館
3. 出張者 西野 修平
4. 出張内容 びんがんフォーラムに参り、是して、備前焼の
代表的な作品の数々の展示会であった。桃山時代以
前の古備前。しかしながらすでに今の形をとりとめて
いて生活に使われ、又、その美さもみごとである。金器
の中に入ると、ムダがなくし素朴の中に美をみ出し
ている。今の作家たち、特に名手と言われた人も彼等に

(裏面へ)

うへ

習って成長した跡を説明され教えられた。

これと同時に赤松麿作の展示があり津山身の画家としては明治以降では岡田豊之「最高の人」と言われた。そして、その作品や仕事を見た。

以前に赤松家が麿作の遺品を津山市に寄贈したと言われたのを永代市長が断ったのをおぼ

えている。残念であった。しかし、そこで津山の(株)菅目と江原徳明会が所有しているものを約10点づつ位、本品にいたのを見て津山にも有志がいるのだと感じた。

入場料 900円

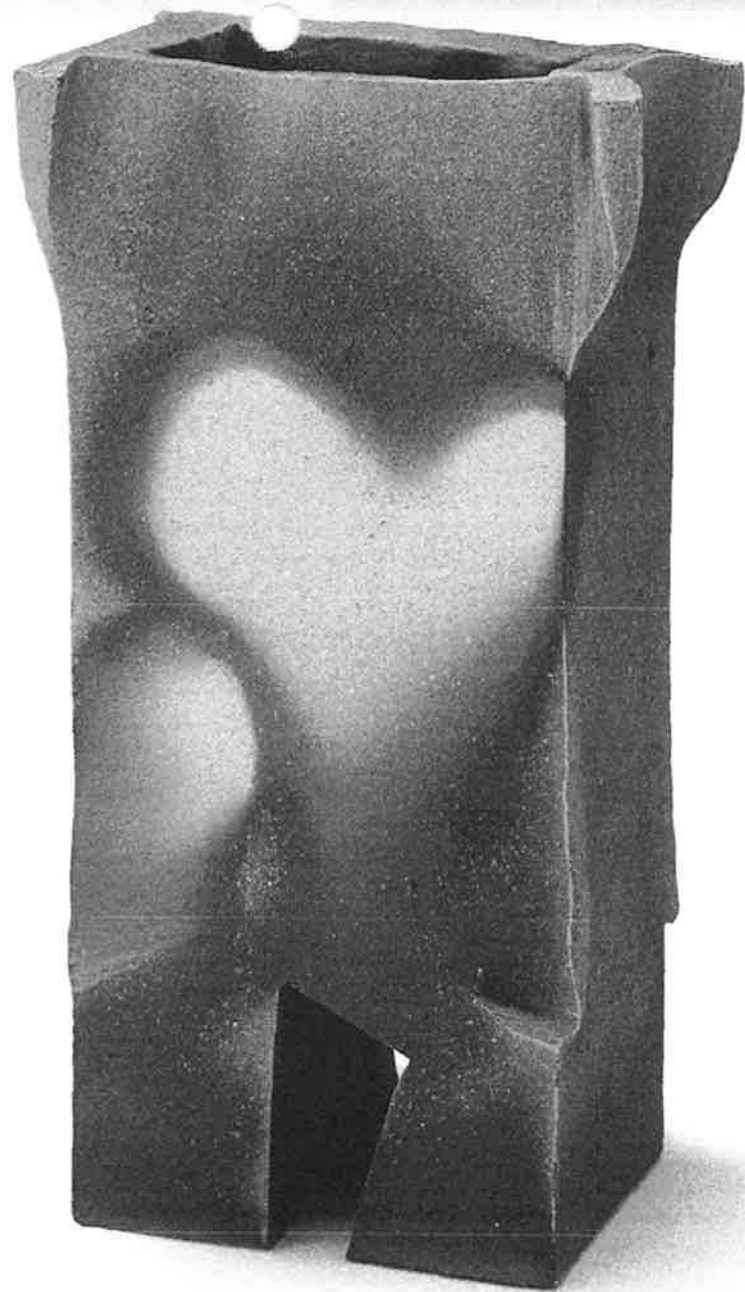
備前

— 土と炎から生まれる造形美 —

2020年

10月10日[土]

↓
11月8日[日]



岡山県立美術館

《角花生》2008年 岡山県立美術館蔵

伊勢崎 淳

来場予定：10月17日(土) アーティスト・トーク

平成 3 年 3 月 22 日

津山市議会議員 西野修平

出張報告書

下記のとおり出張しましたので、報告します。

記

1. 出張期間 ~~平成~~ 2 年 10 月 22 日 ~ ~~平成~~ 2 年 10 月 22 日

2. 出張先 岡山 龍樂堂村 - Utenjin 川

3. 出張者 西野修平

4. 出張内容 江戸時代 近代岡山の偉人伝「藤田傳三郎」
岡山の海と山を繋ぐ右男である。児島湾(湖)の湿地
帯を何とかして下土いと園にお願いをしたことが、
琵琶湖疏水で「京都」の水を引いた男、藤田傳三郎
にお願いをし、湿地帯 3,000ha を埋め立て、農地
にした。潮水に強い、米の品種改良をした人であり、海と

(裏面へ)

埋め立てたので地名も藤田村と地域の人から
付けた。その後藤田は柳井の山に鉄脈を採出し
採掘発掘。その鉄石を運ぶ為備前片上まで鉄
道を引いた。そして、この鉄石を精製する為北九州
まで運ぶ為山陽鉄道を敷いた人である。藤田は
明治の元勳が江戸で政治をする為その元援として萩から
大阪に来て事業を始めその成功を認められた人である。
事業の片方はお茶を愛し、その中で道具の良さを知り、これが
明治になつて海外へ流出するのを憂い、^{収集}集め始めた。これが
現在の大阪の藤田美術館である。事業文化の両面
で日本に貢献し、田舎の山と海を変えた男のお話し
でした。傳三郎から五代目の當代が来られ、現
藤田美術館のお話しも南王、国宝が10点もあり
お話しもいた"と言う。洋画の大塚美術館と
共に日本の美術館の代表的な存在であります。

参加料 1000円

平成 3 年 3 月 22 日

津山市議会議員 西野修平

出張報告書

下記のとおり出張しましたので、報告します。

記

1. 出張期間 平成 2 年 11 月 10 日 ~ 平成 2 年 11 月 10 日

2. 出張先 滋賀県長浜市国友 国友鉄砲ミュージアム

3. 出張者 西野修平

4. 出張内容 約一時間半早く着いたので国友の町をくまなく

歩いた。厂史的な家の表示と看板が取りまわっていた。

国友の鉄砲については以前より興味があった。NHKの特

集で見たので最速連絡として視察を決めた。長浜は

戦国の日本の表舞台となった地であり、鉄砲自衛隊が事態が

種子島に伝来して数年内で日本に蔓延し、戦国の世

(裏面へ)

うへ

銃^本のためです。しかし、国産の鉄砲を造るには大変な努力が入り、特に砲包(づ)の元を止める事に苦勞がある時、子供が大根に穴をくり、ものを止めるのを見てヒントを得たと言う。砲元をくりネジに止めたところ成功したと言う。これが日本のネジの始まりです。ニハス刀鍛冶が強く、この国で鉄砲の鍛錬と精巧さで飛距離命中率も高利。数年後、スペインのオランダが日本に来た時、外国産は100mの飛距離であったのが、日本のものは200mの距離で命中率も高かったのが大変おどろいたと言う。この頃の日本の鉄砲は約30万丁でヨーロッパ全体の数に匹敵していたと言う。スペインは信長、秀吉に力を入れた中国制覇も考へ失敗し、オランダは家康に力を注ぎ、天下後はオランダのみ交易をしたと言う。この時、家康は国産の鉄砲に力を注ぎ使った。持っていたと言う。その後、国産一貫齋が鉄砲の望遠鏡や天体望遠鏡を考案し、世界で最初に太陽の黒点を発見したと言う。そして飛行機まで考へたと言う。国産の鉄砲は日本の夢を開いたのである。

ニハス刀鍛冶館長 吉田 一郎氏と国産鉄砲研究会

会長 廣瀬 一貫氏にお願いして、^教心な説明を頂いた。

入館料 300円

シアタールーム

国友鉄砲の歴史や火縄銃の仕組み、国友町のことが分かりやすく解説された映像がご覧いただけます。放映は随時、放映時間は約10分。収容人数45人。国友町に伝わる「花火陣屋」についての展示もあります。



展示室

期間限定の特別展示を行う展示室です。国友一貫齋コーナーもこちらです。

売店

火縄銃や国友に関する書籍やグッズを販売しています。通販も可能です。



国友一貫齋



東洋のエジソン国友一貫齋翁は、反射望遠鏡・気砲(空気銃)・魔鏡等の製作や懐中筆(筆ペン)・玉燈(ランプ)・短檠等を発明した。特に望遠鏡での太陽の黒点観測、月の観測、金星・木星・土星の観測図は、世界でも類例のない貴重な記録と言われている。

国友が生んだ科学者・文化人

辻宗範

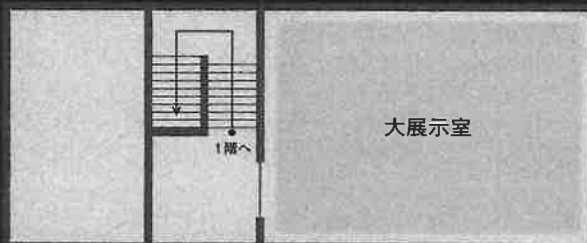


茶人・辻宗範翁は、小堀家茶道師範である富岡友喜より茶道・花道・書道・歌道などを学び、晩年には遠州流茶道家元の再興に当たり「返し伝授」を行う一方、茶の湯を楽しみ多くの書画を残した。辻村養翁、三角有裕翁は医師として江戸後期に活躍した。

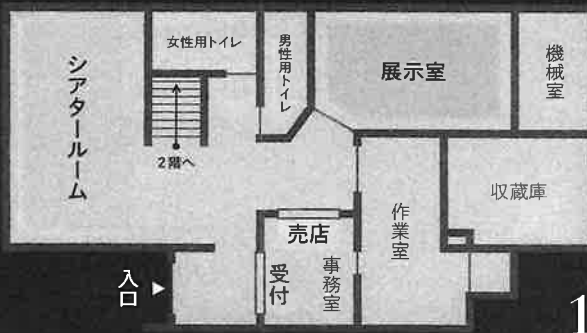
国友への鉄砲伝来

天文12年(1543)8月25日、種子島の門倉岬に一艘の中国船が嵐のために漂着した。そこに乗っていたポルトガル人から、初めて日本に2挺の鉄砲(火縄銃)が伝えられた。以降、国友・堺・根来など各地で鉄砲が作られた。鉄砲と共に伝わった新しい文化、特にネジの開発は、日本の歴史を大きく変えた。

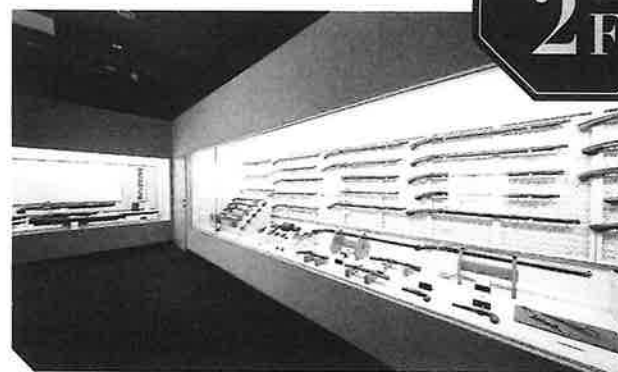
種子島に伝来した鉄砲は、足利将軍の命により早くも伝来の翌年に当る天文13年(1544)から国友で作り始められた。ネジを切る方法など創意工夫を重ね、大量の鉄砲製造が可能になった。最盛期には、国友には70軒の鍛冶屋と500人を越す職人がいた。



2F

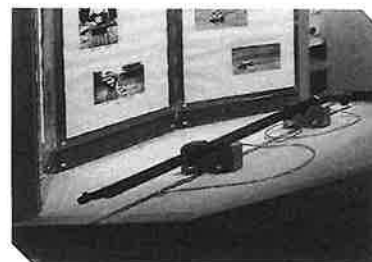


1F



大展示室

国友の火縄銃をはじめとした貴重な火縄銃50挺あまりの展示のほか、火縄銃製作の仕組み、製作に使われた道具などをご覧いただけます。



火縄銃体感コーナー

火縄銃の実物に触られます。担いで、覗いて、その重さと臨場感を体感してみてください。

鉄砲鍛冶の様子

音声ガイド案内

当時の鉄砲鍛冶の様子を、音と音声ガイドで案内するミニシアターです。



国友鉄砲のいろいろ

火縄銃の玉は丸い鉛を使用しており、その玉の鉛の重さ(大きさ)によって、細筒・中筒・大筒に区別される。細筒(足軽銃)は2匁玉筒(口径11mm)前後、中筒(侍筒)は10匁玉筒(口径19mm)前後で、20匁玉筒(口径24mm以上)を大筒という。江戸後期には短筒や脇指鉄砲、連発銃等も作るようになった。現存する多くの国友銃は江戸中期から後期に製作されたものである。

平成 3 年 3 月 22 日

津山市議会議員 西野 修平

出張報告書

下記のとおり出張しましたので、報告します。

記

1. 出張期間 ~~平成~~^令 2 年 11 月 16 日 ~ ~~平成~~^令 2 年 11 月 16 日

2. 出張先 瀬戸内造船家具プロジェクトについて視察
伊予市真聖建設

3. 出張者 _____

4. 出張内容 瀬戸内造船家具プロジェクトを推進している真聖建設で社長の吉野氏に出席いただき会社・工場を見学し説明を聞く。造船所の足場に愛媛県産の天然杉板を道板として使用しているが数年前に事故防止の為、新しいのと取り替えられる。=水がもたない=と云うので、=水を使って家具を造りオーグメントに

(裏面へ)

うすへ

売り上げの中から小・中学校に援助をする。という
アイデアを出した産経新聞が大きく取り上げ、瀬戸内
造船がその趣旨に賛同して無料で下土る事
になり、プロジェクトが完了したとの事です。また、
たのびのびと公共に役立つ話（である）。

平成 3 年 3 月 22 日

津山市議会議員 西野 啓平

出張報告書

下記のとおり出張しましたので、報告します。

記

1. 出張期間 平成 2 年 11 月 17 日 ~ 平成 2 年 11 月 17 日
2. 出張先 香川県 多度津町 合田邸
3. 出張者 西野 啓平
4. 出張内容 北前船の交易で明治初年より賑をなした合田氏の大邸宅が多度津町に寄贈されたとの報道を見たので視察に行った。多度津の合田氏の名前は以前より色々な場面で私の記憶にあった事もあり、多度津は香川県の瀬戸内海の瀬戸内川河口なので旅館・料亭・置き屋等があり栄えた町である。その後、少林拳法の

(裏面へ)

うさへ

(岡山県作東町出身)

開祖・宗道臣がこの地に木山と築いたのが、今も世界的に有名である。宗道臣の最初の屋敷が合田城です。町の目抜き通りに合田邸はあり、向屋の事務所も並設された立派な建物であり、日本郵史に洋風を取り入れた見事な立派なものでした。傍りの職員がくまなく説明して下さり、ほんとうにすばらしいと感服の事がありました。その中で、日本建築の総二階の離れが大地振の時にびくとしたのが、皆おどろいたらしい。そこで今にも調べて下さり、建物の筋交が一本もないのに倒れなかったのは、丸い木製の手摺りの中に太い鉄筋が入って、しっかりと固定されたことだそうです。あんなに緻密な組工が、(とあり)とくりにした。その何となく、(社長)が明治の中途にイギリスに旅行して来たのが、イギリス館なる洋館と庭がある事だった。壮大な邸宅である。修理保存に技術者と予算があるのだろうか。心配だ。

平成 3 年 3 月 22 日

津山市議会議員 西野 修平

出張報告書

下記のとおり出張しましたので、報告します。

記

1. 出張期間 平成 2 年 11 月 17 日 ~ 平成 2 年 11 月 18 日

2. 出張先 坂出市宇和津 大和麵機トク

3. 出張者 西野 修平

4. 出張内容 大和麵機に(さぬきうどん)の研究

ニニはさぬきうどんの手打式麵打機の研究所と

製作所である。岡山県内の手打うどん屋さんなど

もほぼ 7~8割はニニの麵打機である。ラーセル

ソバの打機も造り世界に輸出している。そして

麵の研究、スープの味付、天ぷら等々、今この研究室が

(裏面へ)

うさへ

あり、そのまゝ「数」の生徒が一年間にはまるとのこと。時代と共に客の趣味が変わる。外国の人の好みは付々まで研究している。私が行った時、玉子のカツをたのむのが時向がかわるので、これを材料でかく、玉子おき材が出来たので試験を見せし後、たまたまいいたかどし価値が安く、おぼえ人の一ヶ月の給料位にして売れさう。一日二日と私も麵作り、スーパ作りに参加した。生徒の中には開店して何年も経つが新しい工夫の勉強にまよっている人もいた。高巻は限定的、勉強らしい。ゆえゆるあまな、である。

平成 3 年 3 月 22 日

津山市議会議員 西野修平

出張報告書

下記のとおり出張しましたので、報告します。

記

1. 出張期間 平成2年11月22日 ~ 平成2年11月22日

2. 出張先 岡山県立美術館

3. 出張者 西野修平

4. 出張内容 第67回 日本伝統工芸展

毎年見に行つて113点、やはり全日本はこれだけ違う。毎回見ると目と暮つて113点が新しい。

人が出て来ると新しい技が見えて来ると、奥(24点)。

染織の部では岡山県の人全くと来ると。見島の

シーラスや津山が刺繍は二の様な場所では染織の

(裏面へ)

うら

存在のレベルが違ふのか？ 陶芸では備前
焼がやはり多い。しかし、茶器としては向の存在の
置る物が少ない。木工芸では小笠原之氏を始
め東北の人が女人位いふと集まらぬ。津山の
文化度が合ふからではない。

平成 3 年 3 月 22 日

津山市議会議員 西野 隆平

出張報告書

下記のとおり出張しましたので、報告します。

記

1. 出張期間 平成 3 年 1 月 5 日 ~ 平成 3 年 1 月 5 日

2. 出張先 天満屋葺川会館

3. 出張者 西野 隆平

4. 出張内容 院展 園の会場

100回を数えてから 横山大観、平山隋夫の絵が
改めて 多く出品されている。今年にコロナの関係
で茶会が中止となり 少し楽しみ（お茶）が出来
なかった。園の^{新春}の風物史に存つて いる 着
園の会場は全国でも有数である。今年に花の

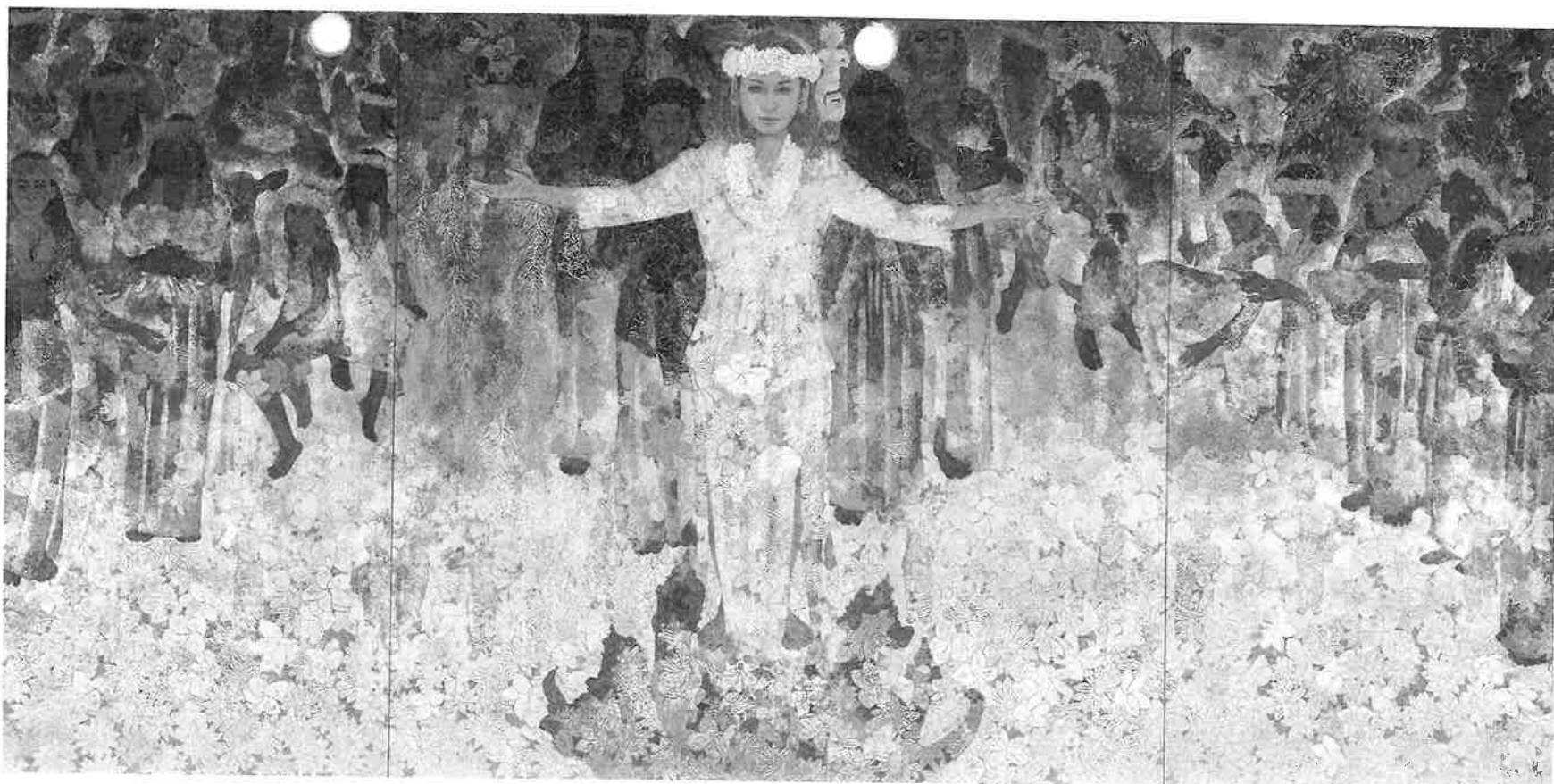
(裏面へ)

うらへ

絵、特に土くらの絵が好かれたと思う。津山の
の桜を描く津山人が出て来るといい。

再興 第105回
日本美術院展覧会

院展



神々の視座(内閣総理大臣賞) / 井手 康人

■2021年1月2日[土]→17日[日] 午前10時～午後6時
会期中無休

■岡山天満屋 6階葦川会館

岡山の新春を飾る、再興第105回日本美術院展覧会「院展」の開催です。
田淵俊夫、那波多目功一、下田義寛ら日本画壇の巨匠と実力作家の
作品57点を展示します。

主催 催：公益財団法人日本美術院、山陽新聞社
後 催：岡山県、岡山市
援 岡山県教育委員会、(公財)岡山県郷土文化財団、(公社)岡山県文化連盟
RSK山陽放送、OHK岡山放送、TSCテレビせとうち
RNC西日本放送、KSB瀬戸内海放送、oniビジョン、倉敷ケーブルテレビ
FM岡山、レディオモモ、FMくらしき

入 場 料：前売り券/800円(一般のみ)
当日券/一般 1,000円(団体 800円)、高校生 600円(団体 500円)
※消費税込み、団体は20人以上

前売券販売所：山陽新聞社サービスセンター/天満屋バスステーションチケットセンター/
岡山県内の主要プレイガイド/ローソンチケット(Lコード62072)、
セブンチケット(セブンコード086-643)、チケットぴあ(Pコード685-438)

[お問合せ] 山陽新聞社事業本部 TEL 086-803-8015

同時開催 岡山会場限定企画
日本美術院作家からの年賀状

院展会場内に公益財団法人日本美術院の同人が描いた年賀状を展示します。
大作とはまた違った、作家の温かみが伝わる小作品をお楽しみください。

井手康人氏
内閣総理大臣賞
受賞記念講演会

岡山県在住の井手康人氏が「神々の視座」で内閣総理大臣賞を受賞したのを記念して、作品制作への想いを語ります。

・2020年12月22日(火)午後1時30分～ 住所、氏名、電話番号を明記の上、
「院展記念講演会」係へ
・山陽新聞社さん太ホール (岡山市北区柳町2-1-1)
・Eメール/inten@sanyonews.jp
・受講料:1,000円(税込) 〃 F A X/086-803-8115

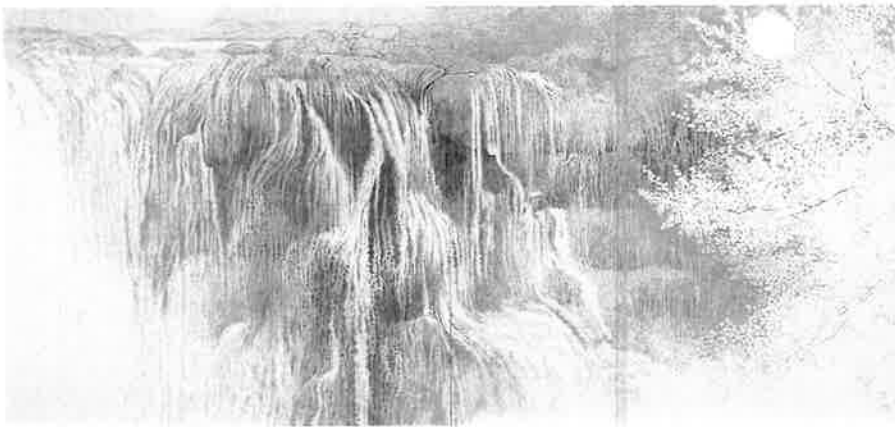


1月2日(土)
和装での来場者は入場無料

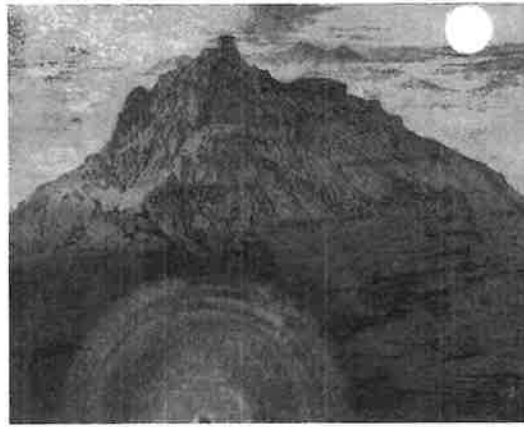
中学生以下は
入場無料



TENMAYA
岡山・天満屋
岡山市北区表町2-1-1 代表電話086-231-7111
www.tenmaya.co.jp



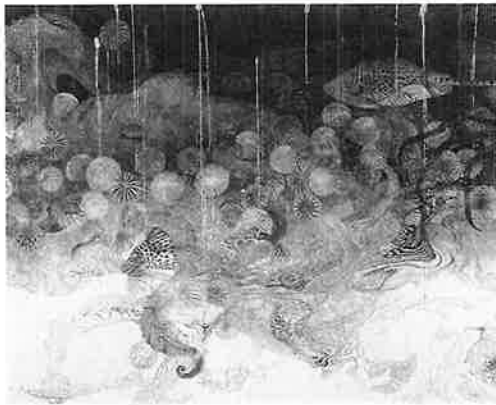
龍門の滝／田淵 俊夫



豊峰霞み渡る／下田 義寛



奥入瀬の秋／那波多目 功一



夜行《日本美術院賞》／木下 千春



夜宴《日本美術院賞》／吉村 佳洋



風 止む／小田野 尚之



九月の夕立／中村 譲

院展 岡山会場出品作品一覽

同人	豊峰霞み渡る	下田 義寛	海流	清水 由朗	境界	《奨励賞》	赤田美砂緒	緑深し	《奨励賞》	谷 善徳
	パリの風景(カルーセル凱旋門)	小山 硬	松林	齋藤 満栄	白土の地	《奨励賞》	浅莖 水貴	好日		西村 理奈
	重なる山のもこう	伊藤 彰耳	風 止む	小田野尚之	フィクションの知人	《奨励賞》	池上 望月	凧		廣藤 良樹
	龍門の滝	田淵 俊夫	継なぐ	宮北 千織	クロアチアの朝	《奨励賞》	稲員 頼子	彩乃鞆		藤田 和美
	奥入瀬の秋	那波多目功一	霧の山	大野 逸男	竜犀	《奨励賞》	大矢 夏目	残照		藤原 弘文
	昇陽	手塚 雄二	前夜	北田 克己	ミゼレーレ	《奨励賞》	岡田 眞治	風の合間	(招待)	前田 力
	京舞妓	清水 達三	深淵	《文部科学大臣賞》	白兔予祝	《奨励賞(無鑑査)	川崎 麻央	小島にて		松本香葉子
	華は根っこあってこそあしがの大鼓	西田 俊英	神々の視座	《内閣総理大臣賞》	夜行	《日本美術院賞(無鑑査)	木下 千春	群		宮澤 孝恵
	牡丹群像	松村 公嗣	九月の夕立		光陰		木村 遥	樹下逃走		妻鳥 健
	大樹・五色八重咲散椿図	大矢 紀	サン・ガブリエル礼拝堂		或る採石場		酒井 龍一	空澄む		山本 恵子
	雪の華・浮舟	高橋 天山	音階		marmo		澁澤 星	暦日		吉原 慎介
	古代浮遊	吉村 誠司	樹影		ボーダーライン		澁谷 祥子	夜宴	《日本美術院賞》	吉村 佳洋
	武心の龍神	村上 裕二	晩鐘		虚ろ	《奨励賞(無鑑査)	鈴木 恵麻			
	白鳥讃歌	今井 珠泉	山の心臓		風の吹くまに		瀬戸口祐佳			
	花の森で	倉島 重友	窓		街	《奨励賞》	竹内 榮次			

お客様へのお願い

新型コロナウイルス感染症の拡大を防止し、お客様に安心して本展をご観覧いただくため、下記のご協力をお願いいたします。

●37.5度以上の発熱や咳などの風邪の症状、息苦しさや強いだるさなどがある方は、入館をご遠慮ください。

●マスクの着用や咳エチケットを遵守してください。

●入館前に、手指消毒等をしてください。

●会場内では密にならないよう、他のお客様との距離を空けてお静かに鑑賞ください。
(状況によっては、入場制限などをする場合があります。)

TENMAYA

平成 3 年 9 月 22 日

津山市議会議員 西野 修平

出張報告書

下記のとおり出張しましたので、報告します。

記

1. 出張期間 平成 3 年 9 月 31 日 ~ 平成 3 年 10 月 3 日

2. 出張先 岡山 林有美術館

3. 出張者 西野 修平

4. 出張内容 お守り刀特別展

お守り刀は「魔を除け邪を祓う」と言う祈りが込められたものだと言う。コロナ禍の時、ある意味を感じる。又、現在は静かな日本刀ブームでもあり瀬戸市が「国宝山鳥毛を5億円で購入」し、備前刀が人気を返している。お守り刀は少子化で

(裏面へ)

うらへ

日本刀の粋を凝らしたものであり、美術的に
魅力があった。

入館料 800円

お守り刀特別展

～ 願いを込めて ～

Omamori
Katana
Special Exhibition

林原美術館

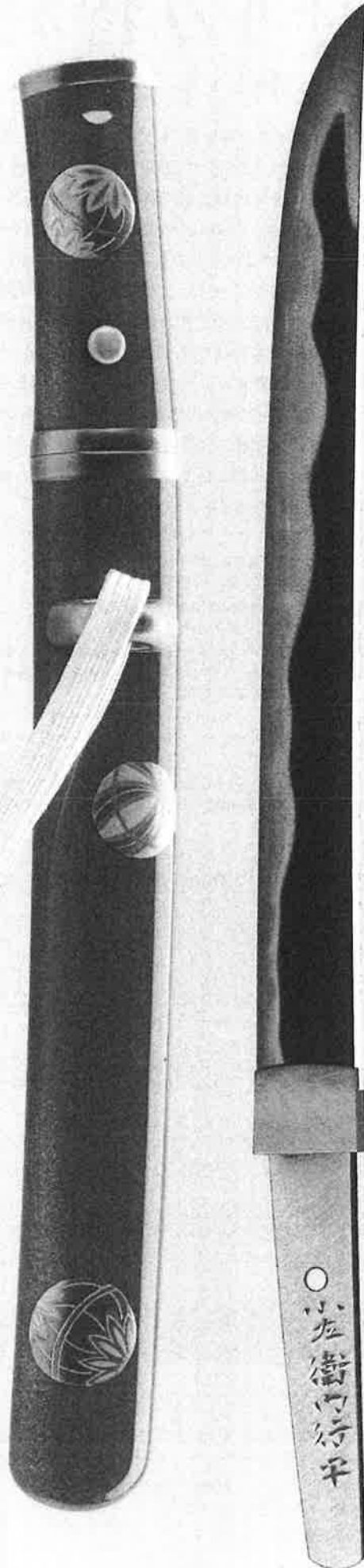
HAYASHIBARA MUSEUM OF ART

〒700-0823 岡山県岡山市北区丸の内2-7-15

TEL(086)223-1733 FAX(086)226-3089

<http://www.hayashibara-museumofart.jp>

 @hayashibara.moa  @hayashibara1964



短刀 銘 小左衛門行平 朱漆塗金時絵合口拵
刀身：宮入恵 研磨：中村裕、ハバキ：渡辺芳信、鞘下地：劍持直利

令和2年
12月5日(土)～1月31日(日)
令和3年

【開館時間】 10時～17時（入館受付は16時30分まで）

【休館日】 月曜日（祝日の場合は翌日）年末年始（12月28日～1月4日）

〔臨時休館について〕 暴風警報発令時は臨時休館とさせていただきます。
詳細はホームページに掲載しておりますのでご覧ください。

【入館料】 一般800円、高・大学生500円、中学生以下無料

※友の会会員・学校メンバーズ加入団体300円

※障がい者手帳提示の方・付添者無料

※団体（20名様以上）・シルバークード提示の方2割引

※お着物にてご来場の方 無料

主 共 後

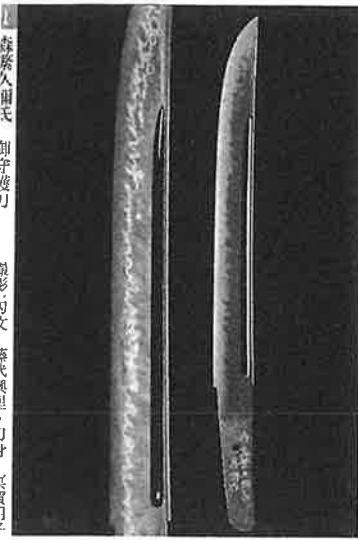
催／全日本刀匠会、坂城町、坂城町鉄の展示館、林原美術館
催／山陽新聞社、TSCテレビせとらち
履／公益財団法人ワコースポーツ文化振興財団、岡山県郷土文化財団

お守り刀特別展

～願いを込めて～

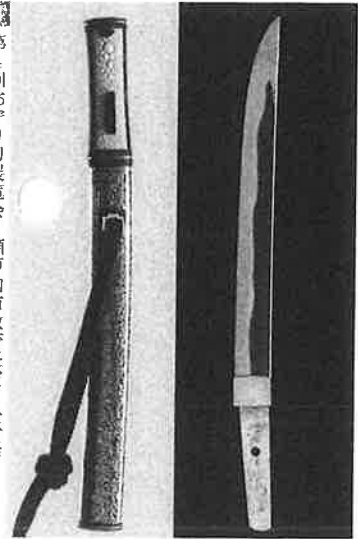
古来、お守り刀は作刀や刀剣研磨、木工芸、金工、漆芸、組紐などの日本伝統工芸の粋を集めて製作されてきました。このお守り刀の魅力を広く発信するため、「お守り刀展覧会」が開催され、今年15回目の節目の年になる予定でした。しかしながら、100年に一度と言われる未知の感染症に世界が襲われ、4月には日本でも緊急事態宣言が発令され、すべての社会活動が中止に追い込まれました。当初お守り刀展覧会の中止も検討されましたが、逆にこのような時だからこそ、「魔を除け邪を祓う」という祈りが込められたお守り刀の力で、世の中の平穏を願うべきではないかと考え、形を変えて開催することとなりました。今回は、優れたお守り刀を集結し、日本だけでなく世界の禍を断ち切りたいという願いを込めて、対象を広げ、過去に制作され、各展覧会に出品されたお守り刀も募集対象とする特別展とし、会場に足を運んで下さる方々の健やかな人生を願う展覧会となることを期するものです。

- 1 短刀 銘 為森繁久彌翁善博作/平成十八年十一月吉日
刀身:久保善博、研磨:篠崎公紀、ハバキ:渡辺芳信
- 2 脇指 銘 大和往月山貞仰同作(花押)/平成三寿年春季夏
刀身:月山一郎、研磨:真津仁彰、ハバキ:安達貞和
- 3 短刀 銘 備前住祐忠作/平成二十二年春 李目金包鞘出鉸合口金具拵
刀身:坪内哲也、研磨:横井崇、ハバキ:宮下武、拵下地・柄巻・鉸着:石崎三郎、目貫:木下宗憲
縁・頭・鑑:宮本恒之、包鞘金具:佐故龍平
- 4 脇指 銘 品平之/平成二十六年八月日 黒呂色漆塗鞘合口拵
刀身:川崎仁史、研磨:阿部一紀、ハバキ・シドメ:中田晃司、拵下地・鉸着:剣持直利
縁:中田育男、柄巻:岡部久男
- 5 短刀 銘 靖國神社御創立百五十年奉納贈祭 品平以余鐵作之/令和元年八月日 彫影風
刀身:川崎仁史、研磨:阿部聡一郎、ハバキ:中田晃司、彫師:木下宗憲



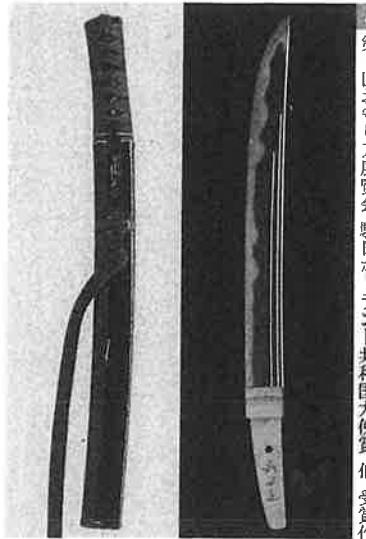
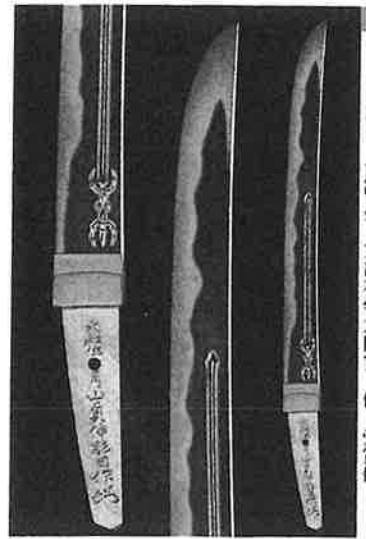
森繁久彌氏 御守り刀

眞形・刃文 漆・頭・目貫 元寶目子



品平之 御守り刀 彫影風

中田育男



大和往月山貞仰氏 御守り刀 彫影風

Events イベント案内

*詳細は林原美術館ホームページでお知らせいたします。*入館料別途必要

「ギャラリートーク」

会期中の土曜日14時から(約30分)学芸員によるギャラリートークを行います。

「お守り刀リモート解説」

会期中に出品作の制作者たちによる工房紹介や作品解説などを、林原美術館 公式 Facebook を使って発信していきます。

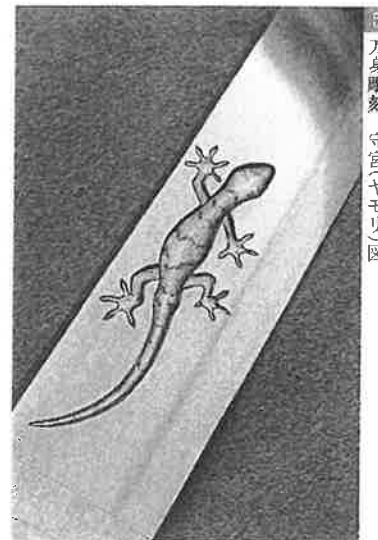
「入館者が投票する市民審査員賞」

特別展入場者(小中学生の団体を除く)に投票券を配付します。心に残った作品1点を記入し、会場内設置の投票箱に投票していただきます。最も多くの票を獲得した作品に「市民審査員賞」を授与するとともに、投票に参加していただいた方の中から抽選で、刀匠製作の小品をプレゼントいたします。

開催予定のイベントについて、新型コロナウイルス感染等の状況により、開催内容の変更、延期もしくは中止となる場合がございますので、事前に当館ホームページ等でご確認をお願いいたします。

【ご来館の皆様へのお願い】

当館では、新型コロナウイルスの感染拡大の防止に向けて各種取り組みを行っておりますが、加えて、ご来館の皆様には、マスクの着用、手指の消毒、両手を広げてお互いが触れない距離の確保、静かな観覧などの厳守をお願いいたします。詳細は当館ホームページをご覧ください、ご来館の際には館内の掲示や館員の指示に従ってください。



刀身彫家 守屋三喜三郎氏

次回予告

企画展「匠の技・百花繚乱 一細部に宿る日本の美」 令和3年2月13日(土) ▶ 3月28日(日)
世界の人々を魅了する日本の美術品は細部まで作り込まれています。印籠や刀装具などに施された様々な「匠の技」をご紹介します。

林原美術館

HAYASHIBARA MUSEUM OF ART

〒700-0823 岡山市北区丸の内2-7-15 / TEL (086) 223-1733 / FAX (086) 226-3089

http://www.hayashibara-museumofart.jp *車椅子でご入場いただけます。

交通/JR岡山駅から徒歩25分/路面電車[東山行]県庁通下車徒歩7分

岡電バス[岡電高屋行]県庁前下車徒歩3分

宇野バス[瀬戸駅前行・四御神行]県庁前下車徒歩3分

循環バスめぐりん[県庁医大線]県庁前下車徒歩3分

【臨時休館について】「暴風警報」・「特別警報」が発令されている場合は、臨時休館とさせていただきます。詳細はHPに掲載しておりますのでご覧ください。



平成 3 年 3 月 22 日

津山市議会議員 西野 修平

出張報告書

下記のとおり出張しましたので、報告します。

記

1. 出張期間 平成 3 年 2 月 16 日 ~ 平成 3 年 2 月 16 日

2. 出張先 岡山市 山陽新聞 さん太ホール

3. 出張者 西野 修平

4. 出張内容 山陽新聞主催の地域創生フォーラムで、今回は観光振興と交流人口拡大で切り開く岡山の未来
と言うものでした。中一部が基調講演で「アートシティ
の北川フユ氏です。彼は現在市五回瀬戸内芸術
祭の企画もしている国際的なアート芸術の人です。
大変勉強になったのは、現代アートは過疎地の地域

(裏面へ)

うさへ

の年配の人達には理解されにくいのですが、長期逗留
で地域の人達と接し、同じ食事を共にすることで解り
合ひ理解が深まって行くのだ。まず、地域のゴースト
(食)が人を一番つなぐ元になるのだと。大変有
意義なお話でした。

和歌部のハニルティスカレッジでは伊原木矢理事
谷口津山市長が来ていたので大変興味があった。

知事は観光の売り上げは農産物の生産量を越える
ものがあり今後を期待すると言ひ、谷口市長は美作地域

全体の観光の目玉を述べた。北川フミ子氏は津山には

鳥取から何度も入り、おぼろ川戸所を見たと言つて来た。

今後は津山市の取り廻り次第と言う。

平成 3 年 3 月 22 日

津山市議会議員 西野 晴平

出張報告書

下記のとおり出張しましたので、報告します。

記

1. 出張期間 平成 3 年 3 月 22 日 ~ 平成 3 年 3 月 23 日

2. 出張先 岡山県立美術館

3. 出張者 西野 晴平

4. 出張内容 雪舟と玉堂ふたりの展覧会

雪舟は室町時代の画僧であり備中出身で京都で修行(禅宗)し、明時代の中国へ留学し、山水画を描いた水墨

画の元祖の様な人です。浦上玉堂は江戸時代岡山

城下に生れ 琴を奏したが、自ら七絃琴を造り奏

しながら酒をたしなみ 絵を描いたと云う。琴と絵の善に

(裏面へ)

うすへ

脱藩し所国を廻り絵をたのんだ。とて、子供達

にも琴と絵を教へ家族で描きたのんだと云ふ。

とて、^{玉堂}岡山を代表する画家であり半世紀ぶりの

の展示会で玉堂自ら造った七弦琴も三つ展示

された壮大な展示会であった。

入場料 1500円 本代 2500円



国宝一雷舟等徳《四季山水図巻(山水長巻)》19世紀/公益財団法人川端康成記念会



特別展

雪舟と玉堂

ふたりの里帰り

東洋重機工業スペシャル

Sesshū and Gyokudō
Two Ink Masters Return Home

2021年 2月10日[水]
— 3月14日[日]

開館時間 9時—17時 *入館は閉館の30分前まで

2月27日[土]は9時—19時

※会期中に一部展示替を行います。

休館日 2月15日[月]/3月1日[月]/3月8日[月]

前売券

■1,300円(一般のみ 1月8日~2月9日)

■早期割引ペア前売券2,400円(ローソンチケット限定 12月21日~1月7日)

■ペア前売券2,500円(ローソンチケット限定 1月8日~2月9日)

当日券

■一般1,500円

□65歳以上1,300円 □大学・専門学校生1,000円

□高校生600円/《中学生以下無料》

□年齢や所属を権認できる証明書や学生証等をご持参ください。
※本展覧券券で同時開催の「岡山の藝術」展もご覧いただけます。

観覧券販売所

○岡山県内の主要ブレイガイド ○山陽新聞販売所

○ローソンチケット[Lコード:62330]

○セブンチケット[セブンコード:087-329]

○チケットぴあ[Pコード:685-489]

主催:岡山県立美術館/山陽新聞社/RSK山陽放送

特別協賛:  東洋重機工業株式会社

岡山県立美術館



Sesshū and Gyokudō
Two Ink Masters Return Home

雪舟の「山水長巻」(毛利博物館)
半世紀ぶりに岡山へ。

16メートルの
国宝を体感せよ!

記念講演会「わかってあげよう雪舟と玉堂」

[講師] 島尾新氏(学習院大学教授)
[日時] 2月13日[土]13時30分-15時
[場所] 岡山県立美術館2階ホール
[定員] 180名(事前申し込み制)

●申し込み方法

メール・はがき・FAXのいずれかで、

①郵便番号・住所 ②氏名(参加者全員) ③電話番号

以上を明記のうえ、岡山県立美術館「雪舟と玉堂展 記念講演会係」までお申し込みください。
応募多数の場合は抽選とし、当選者のみに聴講券をお送りします。

■締め切り

1月29日[金]必着

■申し込み先

岡山県立美術館 〒700-0814 岡山市北区天神町8-48
Tel: 086-225-4800 Fax: 086-224-0648
E-mail: kenbi@pref.okayama.lg.jp

●ご注意

ホール入場の際は観覧券か半券の提示が必要です。



各種イベントや最新情報は下記の特設サイトから
https://c.sanyonews.jp/sesshu_gyokudo

新型コロナウイルス感染拡大の影響で会期や内容等が変更になることがあります。
詳細は特設サイトをご確認ください。



富岡鉄斎《雪舟像》
19世紀末期/岡山県立美術館 部分

雪舟等楊(せっしゅう・とうよう1420-1506?)

室町時代の画僧。備中赤浜(総社市)に生まれる。臨済宗東福寺派の井山宝福寺(総社市)で修行したのちに京都へ移り、相国寺で画を周文に学んだ。35歳頃に京都から周防(山口県)に移り、38歳頃に「拙宗等楊」から雪舟等楊へと改号したとみられる。48歳、遣明船で明時代の中国へ渡り、帰国後は大分で活動する。65歳以前には山口へ戻り、以後同地を活動拠点として作品制作や弟子の育成に励んだ。重玄寺(井原市)で没したとも伝わる。



浦上春琴《浦上玉堂像》
1813年/岡山県立美術館 部分

浦上玉堂(うらかみ・ぎよくどう1745-1820)

江戸時代中後期の文人画家、琴士。備中鴨方藩士の子として岡山城下天神山(岡山市北区)の藩邸内(岡山県立美術館の地)で生まれる。玉堂という号は35歳時に入手した七絃琴の刻銘「玉堂清韻」にちなむ。画業には40歳頃より本格的に打ち込みはじめた。50歳の時、息子である春琴と秋琴を連れて脱藩する。諸国遍歴の後、67歳時からは長男春琴と京都で同居し、詩書画や文人との交流を楽しみながら晩年を過ごした。



■JR岡山駅 後楽園口(東口)より徒歩15分 ■瀬路町電車 東山行「城下」下車徒歩3分
■宇野バス・岡山後楽園バス「岡山県立美術館」下車すぐ ■岡電バス 藤原団地行「天神町」下車すぐ



#岡山 #旅 #国宝 #雪舟と玉堂

CREATE A NEW FUTURE

新しい未来を創りだす



東洋重機工業株式会社

建設・産業機械販売 整備・検査 重機パーツ 建機アタッチメント

□本社 小松建機営業部/ユニット営業部/重機械部 □倉敷営業所 □高梁営業所 □備前営業所 □早島製作所 □ユニット早島工場 □元気!建機ランド



67歳で描いた全長16メートルの大作

国宝 雪舟《四季山水図巻(山水長巻)》※部分
1486年/毛利博物館

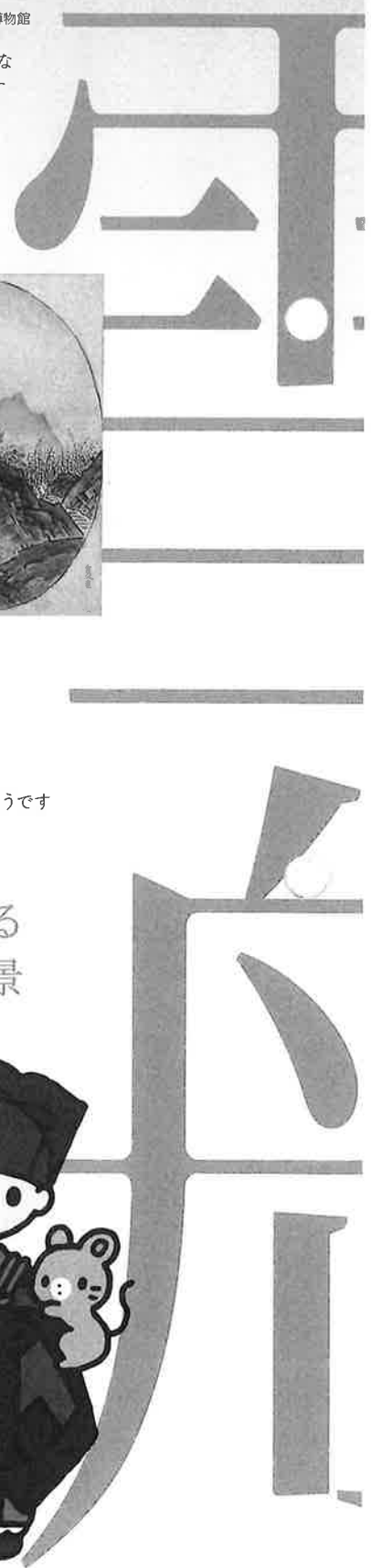


仏教の画題でも 型にはまらない

国宝 雪舟《慧可断臂図》
15世紀/愛知県・齊年寺

- 腕から血が滲んでいますよ!
- 思い切った構図とふたりの表情も見どころです

- パワフルな線と繊細な色づかいが魅力です
- ぜひ実物を見てほしいですね



雪舟得意の夏珪スタイル



雪舟《倣夏珪山水図》
15世紀

- 夏珪は中国13世紀の宮廷画家です
- 84年間行方不明だったそうです岡山初公開!



小さな画面に広がる 奥深く不思議な風景

国宝 雪舟《秋冬山水図》
15世紀/東京国立博物館/展示期間2月10日~28日

- 斜めや縦の線が大胆!

A. Q. 岡山生まれの
水墨画家といえは？
雪舟と玉堂です。



室町時代の備中赤浜(現在の岡山県総社市)出身で、明時代の中国留学も果たした禅僧・雪舟(とうぼう)等楊(1420~1506?)。江戸時代の岡山城下天神山(現在の岡山市北区)に生まれ、琴(きん)を奏でた文人・浦上玉堂(うらかみぎょくどう)。(1745~1820)。

雪舟は10代頃、玉堂は50歳で岡山を旅立ってから、多くの出会いを経験しながら日本各地で活躍しました。それぞれにユニークな人生の魅力もさることながら、時にユニークな



玉堂

音楽家ならではのリズムミカルな線



重要文化財 玉堂《煙霞帖》1811年頃/梅澤記念館

踊るような山や木が楽しいですね 輪郭線にこだわらず色をつけました

心の中の世界を表現

玉堂《山澗読易図》
19世紀初期/岡山県立美術館

家にいる人は「易経」を読んでいます
山が生きているみたい



重要文化財 玉堂《山中結廬図》
1792年/東京国立博物館

まだ玉堂さんらしくないですね

岡山にいた頃の初期作



重要文化財 玉堂《山雨染衣図》
19世紀初期

ほとんど横線で描いています 橋を歩く人を見つけてみて



なま利たちに新鮮な展覧をもたらしします。

本展は雪舟生誕600年と玉堂没後200年を記念して、日本美術史上で燦然と輝く巨匠ふたりに揃って「里帰り」してもらおうという、これまでにない企画です。さらにこのたびは門外不出の名宝である雪舟《四季山水図巻》(国宝・毛利博物館)を特別に迎え、国宝7点を含む約160点を展覧します。これら名品の数々によって、彼らの創意工夫や強烈な個性、そして意外な共通点が明らかになるとともに、水墨画の真髄に触れていただけることでしょう。

平成 3 年 3 月 22 日

津山市議会議員 西野修平

出張報告書

下記のとおり出張しましたので、報告します。

記

1. 出張期間 平成 3 年 3 月 17 日 ~ 平成 3 年 3 月 17 日
2. 出張先 丹波篠山市 丹波焼と観光
3. 出張者 西野修平
4. 出張内容 土土やま桜協会 桜守理事 吉良忠氏を訪ね
日本六窯の一つ丹波焼と桜で観光と語り
篠山市役所を訪ねた。そして丹波篠山市の宮鎮と
語りつき 小山辰彦氏を紹介し頂き観光課や農都
創造部 森づくり課 押田健一氏を紹介し頂き観光
農林業の説明を受けました。黒大豆の丹波黒はゴキウの

(裏面へ)

うさへ

農業遺産に指定されている。又、丹波焼や丹波栗

のお菓子の特産物で、丹波焼もユネスコに申請の

予定に聞く。そして、歴史的な背景から丹波篠山

はマン街道と銘打って 源義経の道、祭祀の道

さくら街道、紅葉街道 戦国乱世の道と名付けた。

マップを作り観光を打ち立てている。又、3年前に奉

宮伝達の街を今一度たづねた。多くの市の中泊が出来る

古民家の一棟貸ホテルが未来 ~~実~~ 充実している様に思えた。

津山と同じ城下町だが京阪神に近い。蕎麦、数段の

ちびいがある様に思えた。